



次代の福祉有償運送の 展望のヒントを探ろう

三月八日(日)に「移送サービスのつどい二〇〇九」が開催され、「さわやか」より、高原・貞谷が参加しました。全体会と第二分科会の中から、抜粋して報告いたします。(編集部)

三月八日(日)十時より東京で、東京ボランティア・市民活動センター、東京ハンディキャブ主催の「移送サービスのつどい二〇〇九」が行われました。事務局から、高原事務局長、貞谷事務局員が出席し、全国より約一〇〇名の参加がありました。

今年度より東京ハンディキャブの代表が、阿部司氏から、荻野陽一氏に代わりました。

「移送サービスのつどい」に込めた思い

初めに、代表荻野陽一氏から基調報告がありました。一、従来の枠組みにこだわらず、福祉有償運送の関係者を広く集まれる場にした。二、「東京」が主催する事を意識し、地域性を出しつつ、他の地域との比較ができる場にした。三、市民が自主的主体的に関わっていただける事を大切にする。



東京の様子としては、「福祉有償運送」の登録団体は、前年に比べて、減っています。車両台数は、増えているとの報告があり、介護タクシー(福祉輸送限定事業者)では、平成二〇年九月現在は、四二六事業者、車両数七五七台でしたが、

平成二十一年三月現在では、約六〇事業者、車両数は、約三〇〇台増えているとのことでした。

また、東京ハンディキャブ連絡会の活動としては、①東京にこだわった活動を進めていきたい。そして他の団体との関係強化をしたい。

②会員をもっと増やしたい。との報告がありました。

十時三十分より、NPO法人全国移動サービスネットワーク事務局長、伊藤みどり氏より、福祉輸送利用者ニーズの全国実態調査報告がありました。

全国実態調査の

福祉輸送ニーズの

ねらいとは...

- ①福祉輸送の行政施策、制度設計の前提となる利用者ニーズの調査項目の獲得
- ②全国の移動困難者の基礎データを、国や各自治体で継続的に収集するための指標の作成
- ③公共交通機関、タクシー業者、NPOや、施設送迎車など、福祉輸送に関する利用のしくみや制度を策定するため



の基礎データの獲得の為にアンケート調査を行ったそうです。

調査の対象者とは...

移動困難者とは、

- ①困らずに外出している人
- ②外出しているが、(問題あって)困っている人
- ③外出の希望があるが、(問題あって)外出できない人
- ④外出の希望がなくて、外出しない人

を対象にしたとのことです。

外出(移動)のニーズ

MUST ニーズ(必要な要求)

- ①通院・入退院
- ②デイサービス・デイケア
- ③通勤・通学

WANT ニーズ(欲しい要求)

- ①日常の買い物、役所・銀行等
- ②友人・親類に会いに行く
- ③趣味活動・会合・地域の活動
- ④外食、映画、ショッピングなどの近場の行楽
- ⑤冠婚葬祭、お墓参りなどの行事
- ⑥温泉、旅行等の遠地への行楽

調査結果から見えてくることは?...

一、移動困難者とは誰か?
 ①体調の悪い人
 ②移動するのに、高い費用がかかる人
 ③公共交通機関が使えない人IIバス・タクシーが利用できない人

二、移動制約者の現状と課題
 ◎地域事情によって外出状況の差異が大きい。特に、過疎地ではWANT需要が、より満たされていない。
 ◎WANT需要の移動手段はマイカーに依存している。
 ◎属性のうち、もつとも外出満足度に影響の大きいものは、収入額であり、その他の原因を重ね合わせると、外出頻度とWANT需要を満たしていることがかなり影響している。
 ◎NPOや福祉・介護タクシーに対する満足度が比較的高い。
 (裏面につづく...)



十一時三十分から、九州大学法学研究院 准教授の嶋田暁文氏による「行政学的視点からみた道路運送法下の移送サービス」と題して講演がありました。

昼食休憩をはさんで、十三時から、四つの分科会があり、私たちは、第二分科会「移動困難者といわれる方々は、何に困っているのか？」に参加しました。



ゲストスピーカーとして、NPO法人ぎふ市民協 理事 中谷芳孝氏、神奈川県保健福祉部医療課 副課長金井信孝氏、NPO法人全国移動ネットワーク 理事長杉本依子氏の三名が参加されました。

そして、ぎふ、富山、大阪の各代表の方々が、アンケート調査をしての今の現状を発表して、活発な意見交換が行われました。

ニーズ調査実施のための

ガイドライン(案)

また、午前中の福祉輸送利用者ニーズの全国実態調査報告の、今後よりよい正確なニーズ調査を行うために、ガイドライン(案)を作るうとの事で、参加者皆で、意見交換しました。

★WANTニーズを尋ねる方がいいのか?

★移動困難者は、どういう人か?

★外出満足度で測ると目標値が定まらない。

★経済困難者を対象にするのか?

★移動するのにかかる費用が希望より高いのが問題か?

★移動困難者への付き添いの必要性をどう考えるか?

★移動困難者のニーズ、その家族のニーズは分けるべきではないか?

などの意見が出され、次回のニーズ調査には、この意見を反映して行いたいとのことでした。

十五時二十分から、全体会「もう一步先の福祉移送について考える」と題して、コメントーターに、首都大学東京 教授の秋山哲男氏、九州大学法学研究院 准教授の嶋田暁文氏を迎えて、活発な意見交換を行い、十七時三十分閉会しました。

(社) 全国腎臓病協議会

元常務理事 小林孟史さんをしのぶ会



三月十五日(日) 東京ビジョンセンター秋葉原において、昨年十一月二十六日に逝去された、全腎協元常務理事の「小林孟史さん」をしのぶ会」があり、山田理事長が出席しました。

(社) 全国腎臓病協議会と

日本難病・疾病団体協議会の主催で行われました。

小林さんの奥様や、全国から七十余名の所縁の方々が集まり、故人を偲びました。

全腎協の設立に携わってこられた頃のエピソードや、その後の活動を共に歩んでこられた方々

からのメッセージが送られました。

「さわやか」の江頭相談役から小林さんに宛てた手紙



を山田理事長が代読しました。「さわやか」は十三年前の設立の際に大変お世話になり、大きなご支援をいただき設立にこぎつけました。その後は、設立一周年記念、設立五周年記念式典など、事あるごとに、北九州にお越しいただき、温かく見守っていただきました。

小林さんのお人柄を偲ばせるような、感動的で温かい会でした。

「さわやか」の紹介と

ボランティア募集のPR

FM KITA QJ出演

三月二十五日(水) 午後八時から、小倉北区の「FM KITA QJ」(エフエムキタキュウ)のラジオの生放送番組に、山田理事長が出演しました。

小倉事業所のボランティアの小林和静香さんの紹介で、「さわやか」のボランティア募集と事業所の紹介を兼ねて出演することになりました。



タイトルは、「元気シニアの玉手箱」といいます。この番組は、元気なシニア、人生をイキイキと過ごしてい



るシニア、また仕事のことや、現在取り組んでいる社会活動、趣味、健康法などを聞きながら、紹介するトーク番組です。

パーソナリティーの門司正弘さんと約一時間のおしゃべりをして、「さわやか」の元気なボランティアさんの紹介と、ボランティア募集のPRをしました。